

事後評価報告書
(日本-フランス研究交流)

1. 研究課題名： 環境・進化・地質学的に重要な海洋プランクトン（放散虫）の形態-分子の多様性モニタリング

2. 研究代表者名：

日本側： 東北大学 大学院理学研究科 助教 鈴木 紀毅

相手側： National Center for Scientific Research (CNRS) - Institut Ecologie et Environnement (INEE), UMR (L'unité Mixte de Recherches) 7144, Research Scientist (CR2) Fabrice Not

3. 総合評価： A

4. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

本研究は、日本側が得意とする形態分類とフランス側が得意とする遺伝子解析とにおいて連携して日仏両国の海域で放散虫を主たる対象とした合同調査を成功裏に実施し、さらに日仏共著論文を含む原著論文を出版していることは評価できる。本研究成果で日本側の研究代表者と共同研究者が学術賞を含む三件の賞を受賞していることは高く評価できる。

一方で、計画年度内に完成させる予定であった当初計画の公的利用可能な放散虫用 EST データセットは貴重なデータであるため、その完成が待たれる。

(2) 交流成果の評価について

日仏相互の訪問の実績が多く、十分な交流がなされたと評価できる。密な交流により、日仏共同で 600 ページにも及ぶ学術書を Springer 社から出版するという素晴らしい成果につながったと考えられる。

本事業に関して、二回行うことを予定していた比較的大きな規模のワークショップが開催できなかったことは成果の研究者コミュニティにおける共有と広報の広がり観点から残念であることから、ワークショップ・セミナーなどでの研究交流が充実されることを期待したい。

(3) その他

二国間事業の成果をもとに、国際学会などと連携も強化し、より広がりを持った特別セッションを主導するなどの活動が期待される。